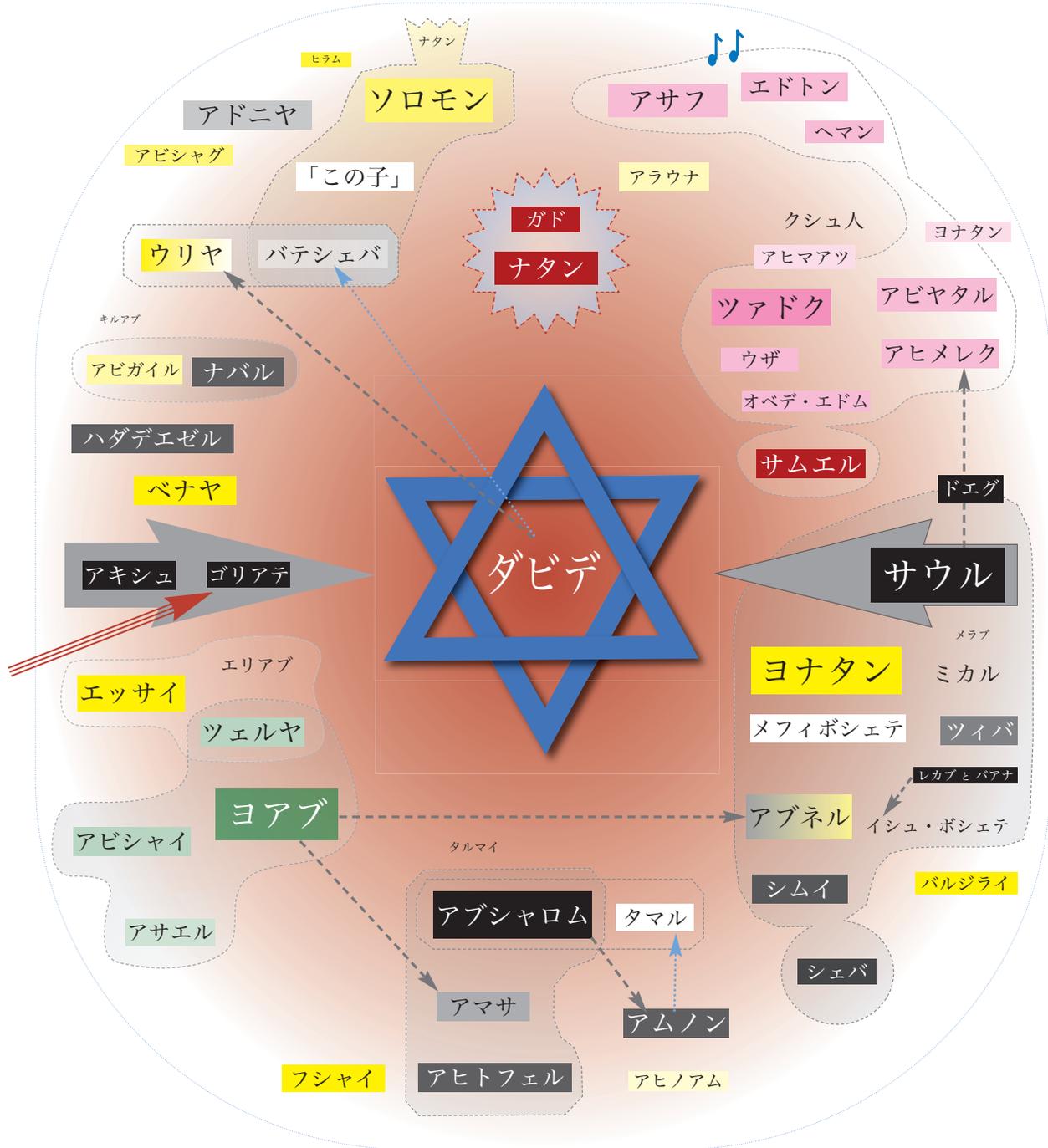


ダビデを



取り巻く人々

ゴリアテについて

1. ゴリアテはペリシテ人。この武装した「海の者たち」はヨシュアの時代に追放されなかったので、彼らは、士師、サウル、ダビデの時代にイスラエルを悩ませました。約束の地でこの早い時期、これほど多くの記載がある敵はいません。

2. サムソンの時期に、ペリシテ人は一番の敵であり（士師13～16章）、また1サムエル記で最初に出てくる敵でした（4～6章）。このように、彼らとイスラエルはよく戦っていたので、ゴリアテはイスラエルの神について少なくとも何らかは知っていたでしょう。

3. ゴリアテの体の大きさとその武具が最初に17:4～7に描写されています。次に彼の言葉による脅しがあり、それに対するサウルと民の反応が17:8～11に記録されています。12節でダビデが登場する前です。

4. ゴリアテは、ペリシテ人の「代表戦士」でした(17:4, 23)。この言葉は、『2つの間の者』という意味です。両軍の間には谷があり(17:3)、ゴリアテは陣営から出て来て間に立ちました(4)。ダビデもイスラエルの代表として、神の民とその敵との間に立ちました。

5. 1サムエル17章の戦いの記録の他に、ゴリアテの名前は家族と共に1歴代20:4～8に書かれています。彼はイスラエルの民が遭遇した唯一の巨人ではありませんでした。（民数13:33,申命3:11,1歴代11:23参照）

質問

1. 50～51節でダビデに殺されて首をはねられる前、ゴリアテは他のペリシテ人にとってどんな存在でしたか？(17:4, 23) 17:51～53で彼らが逃げた事から、何がわかりますか？

2. サウルとイスラエルの民にとって、ゴリアテはどんな存在でしたか(17:11,24)？彼の前から逃げた事(17:24)から何がわかりますか？

3. ゴリアテは、誰に、どのように敗北しましたか？石を投げて彼の首をはねたのは、明らかにダビデでしたが(17:50～51)本当のところは？

4. 聖書の中には、他の巨人たちも登場しますが、1サム17章のゴリアテは重要な存在でしたか？彼については、他の巨人たちよりも詳しく書かれています。それはただ、ダビデに立ち向かったという理由からでしょう。彼が名前ではなく、ペリシテ人とか巨人と呼ばれたのはなぜだと思いますか？

5. ペリシテ人で1サムエル記に出てくるのは、他にはガテの王アキシュだけです(21, 27～29章)。(ペリシテ人という敵は、よく名前が出ていませんでした)アキシュは、ゴリアテよりも良く出ています。彼はもっと危険な存在でしたか？彼はゴリアテと違って、どのようにダビデにとって脅威でしたか？(参照 27:1,12)

6. 他にゴリアテのように、神の民をあざけったり、脅威となった人は誰がいますか？(1つの例はイザヤ37章。1ペテロ5:8～10も見て下さい。)歴史の中で、またあなたの個人的な経験の中で、ゴリアテのような人はいましたか？

ゴリアテは...

1サムエル17:1~54を読んで、ゴリアテについて考えましょう。

() 大きな巨人？

- () サウル王よりも背が高かった (17:4, 9:2)?
- () ペリシテ人の王 (17:4, 23)?
- () 聖書の中で一番背が高い人(17:4, 1 歴代 11:23, 申命 3:11)?
- () 経験豊富で十分に武装していた? (17:5-7, 33, 42)?
- () 野生の動物のよう(17:34-37, 43)?
- () 簡単な的だった (17:5, 48-49)?

() 大いなる、罪深い敵？

- () ダビデは的確に説明した (17:26)?
- () 異国の侵略者 (17:1, 民数13:33)?
- () イスラエルの神について無知(5:1-6:12. 17:36, 43)?
- () アキシュより罪深く危険 (1サム 27章 and 29章)?
- () 神様のさばきの的となった (17:36, 45-47)?
- () 傲慢でうぬぼれた自信家 (17:43-44)?
- () 聖書の中で重要人物 (17:6-8)?
- () ダビデに打ち負かされた (17:37, 47, 50)?
- () _____ のよう (適当な言葉を入れる)

適用

合っていると思うものには○、違っているものには×、どちらでもないものには△をつけましょう。

ゴリヤテ

キーパーソンとしてのゴリヤテ

Iサムエル17章（ゴリヤテの記事）は、ダビデに関する聖書箇所の中で最も長い章である。しかし、聖書の視点からすれば、ゴリヤテ自身は重要な人物ではなかった。むしろ、ゴリヤテに対する人々やサウル、ダビデの態度を聖書は強調している。サウルとイスラエルの兵士達の不信仰と、ダビデの信仰をゴリヤテの事を通して見せている。これは、ダビデの信仰のあり方がよく表れた出来事であり、私たちにとっても、信仰が現実の大きな問題に対してどれだけ重要な事であるかを教えている。

代表戦士としてのゴリヤテ

ペリシテ人は、巨人ゴリヤテを代表戦士（原語では「間に立つ者」）として立てた。彼は誰よりも背が高く、力があり、経験と武具において圧倒的な強さを誇った。その身長は、聖書中最高とまでは言えないかも知れないが、イスラエルの中でも身長がずば抜けて高かったサウルよりもずっと高かった。

信仰によって、イスラエルの民と敵の間に立つ者とされたダビデは、戦士としての経験や武具もなく、代表戦士にはとても見えない者であったが、羊と熊の間に立つ羊飼いだった事は、イエス様と同じようである（1テモテ2:5）。

神に敵対したゴリヤテ

サウル王やイスラエル人、そしてペリシテ人もゴリヤテの力を見た。しかしダビデは、ゴリヤテが神の陣営をなぶっているという事実に目を留めた。ゴリヤテは神に対して敵対していたので、ダビデは神が戦ってくださり、神が自分を通して勝利を与えてくださると確信した。表面的には、ダビデがゴリヤテを打ち負かしたように見えるが、実際はダビデを通して神が働いたのである。

ペリシテ人であったゴリヤテ

ゴリヤテは、イスラエルの最も強力な敵であるペリシテ人であった。しかし27章では、ダビデはペリシテ人の地に逃れ、ガテの王アキシュに仕えるように装った。サウル王を恐れたからである。17章でダビデは、ゴリヤテの側につくような誘惑は微塵もなかったが、その後何年もの間サウル王から逃げている間に27章で彼は、イスラエルの悪王サウルに対してペリシテ人の側につこうという誘惑があったのかもしれない。もちろん彼は実際にそうすることはなかったが、アキシュとのやりとりは、ゴリヤテとの対決よりも危険であった。

まとめと適用

信仰をあざけられる時、相手の持つ力や影響力に恐れを覚える事がある。その時に、自分の信仰を低く見てしまったり、自分の力によって信仰の価値を証明しようとしたりする誘惑がある。しかし、信仰があざけられる時には、クリスチャンが辱められているという以前に、そのあざけりは神ご自身に向けられている事を知るべきである。私達は、自分の罪でなく相手が神に敵対しているならば、全てを神にゆだね、神に信頼する者を神が守ってくださると信じて歩むべきである。